

## 卒業論文体験談

### ■はじめに

---

卒業論文提出まであと一ヶ月となりました。順調でしょうか。私は昨年「曇鸞と道教」という題で卒論を書きました。12月中に書き終え、1月の提出日までの期間は、ひたすら手直しを続けました。「卒論は提出すれば合格する」というものではありません。提出後には口述試問があります。もちろん合格しなければ卒業することはできません。

以下、論文を書く上でいくつかアドバイスをしたいと思います。12月に入りましたので、卒論を書き始めている方へ向けてのアドバイスになります。それらのことを頭に入れ、聞いてください。

### ■論文を書くにあたって

---

以下5つ、重要な点を挙げます。

#### ①12月中に書き終えること。あとはひたすら提出まで手直しをする。

⇒年内に書き終える余裕を持つこと。未完成で「提出できなかった」ということだけは避けましょう。何度見直しても、誤字・脱字は見つかるものです。書き終えた論文は時間の許す限りチェックしましょう。

#### ②先行研究は複数確認する。

⇒一つの先行研究だけに依ると意見が偏る危険性があります。必ず複数の先行研究を確認し、広い視野を持ちましょう。

#### ③用語の意味を確認する。

⇒卒論は自分の論文です。その論文の中に読めない言葉、説明できない用語が入っている訳がありません。参考文献等に書かれている語をそのまま用いるのではなく、わからない語は意味を調べて使いましょ。

#### ④卒論は必ず序論から結論までを通して読む。

⇒卒論の手直しをする時、各章・各節ごとに直すことが多いと思います。時間をかけて繰り返し手直しをすると、全体を通して見たときに論が逸れてしまっている場合があります。

適度を通して読むクセをつけましょう。

#### ⑤指導教授に相談する。

⇒指導は多いほど良い論文になります。提出日の直前には、内容だけでなく、卒論の体裁が整っているかも確認してもらいましょう。

## ■論文の体裁・印刷

---

卒論には決まった体裁があります。論文の書式だけでなく、「指定されたファイル・表紙に題目記入用紙を貼付・背表紙に整理番号（学籍番号とは別）を漢数字で記入・論文は3部用意 等」細かく定められています。それら体裁が守られていない場合には論文が受理されません。印刷前に文字数・行数・註等を含め、よく確認しましょう。また提出〆切間際になると大学のパソコンはほぼ満席になります。提出日前日までに印刷をするよう心がけましょう。

**※体裁に関しては、  
『卒業論文作成マニュアル』を熟読してください。**

## ■口述試問

---

口述試問とは、提出した論文を元に主審・副審の先生それぞれと質疑応答を行う試験です。卒論を提出していても、口述試問がダメであれば単位認定されません。

口述試問のポイントは以下の点です。

○誤字・脱字に関して

⇒誤字・脱字は事前に正誤表を作成しましょう。

○論文の問題提起・結論を明確に答えられるようにする

⇒これが一番重要です。自分が何に疑問を持ち、なぜこのテーマで書いたのか。そして、至った結論は何か。それらのことをまとめ、明確に答えられるようにしておきましょう。

## ■最後に

---

恐らく繰り返し言われていることだとは思いますが、卒論のバックアップは必ず取りましょう。どれだけ頑張ってもデータが飛んでしまえば、そこでおしまいです。複数の USB だけでなく、Gmail 等を使い web 上にもデータを残すことをオススメします。

残り一ヶ月、思うように進まず、行き詰まることもあると思います。その時は、先生や先輩を頼り、相談しましょう。卒論を卒業のための論文と思わず、龍谷大学真宗学科での学びの集大成として、自らの納得のいく論文を作成してください。